

ゆめ

さくら

夢咲楽

～和輪話通信～

目次	■未来にはばたけ!! ～さくら市の若者たち～……1	■マスミ先生のワンポイントアドバイス「ICTってなに?」……3
	■子どもを育てる! ふれあいメッセージ ……2	■青少年センターの活動 ……4



▲平成21年撮影

未来にはばたけ!!
～さくら市の若者たち～

若きボランティアたちの絆

さくら市青少年センター少年指導員会(愛称:わわわ隊)には、青少年の健全育成と非行防止の推進のために活躍している20代の若者たちがいます。

10代の頃から積極的にボランティア活動に参加している彼らを代表して、加藤紘敬さん(23歳)に話を聞きました。

加藤さんは、小学生の時に参加したイベントで、一緒に活動した高校生のボランティアにあこがれ、自身も高校生になると仲間とともに中高生のボランティアグループである「さくらリーダーズクラブ」に入会しました。

リーダーズのメンバーとなり、熱心にボランティア活動に取り組んだ加藤さんを支えたのは、「ありがと」「楽しかった」という子どもたちの笑顔と、周りの大人からのねぎらいや感謝の言葉、そして何よりも活動を共にした仲間たちの存在だったそうです。

「楽しい時も苦しい時も、いつも傍には仲間がいてくれた。」という加藤さん。その仲間こそが、現在、青少年センターの少年指導員として活躍している若者たちです。

「仲間は僕にとって財産です。仲間がいたからこそ、人としてもボランティアとしても成長できました。これからも仲間を大切にしたい、ともに成長し続けたいです。きっと、仲間のみんなも同じ考えだと思います。」と飾らない笑顔で話す加藤さんでした。

現在さくら市には、ボランティアとして活躍している10代・20代の青少年がたくさんいます。一人ひとりのこれからの活躍に期待しています。

わわわ隊 福田 克之

喜連川マーチングバンドの活動

喜連川マーチングバンドは、喜連川小学校に通う1年生から6年生が所属しており、平日の火・木・金は上級生を中心に、休日の日曜日は講師の先生と共に学校の体育館で練習をしています。マーチングは全員がレギュラーなので1人でも欠けてしまうと成り立ちません。互いに助け合いたくさんの方に支えられながら「全国大会金賞」という目標に向かって日々練習に励んでいます。

活動を通して挨拶や言葉遣い、諦めず努力することの大切さ、などたくさんのことを学び大人になっても活かしてほしいです。

20数年というこの歴史あるバンドを未来の子ども達へ残せたらいいなと思います。



喜連川マーチングバンド指導者 田中彩由里

ふれあい
メッセージ
シリーズ8

「楽しいけれど 危険がいっぱい」

さくら市立喜連川小学校
校長 蓮見 徹



内閣府が今年2月に発表した「平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査」によると、携帯電話、スマホの所有率は、小学生が36.6%、中学生が51.9%、高校生が97.2%でした。また、近年スマホの所有が増え、ネットの利用(SNS、ゲーム、音楽や動画等)もぐんと増加しました。

スマホ等の情報端末は、私たちに高度な便利さと楽しさをもたらしてくれましたが、同時に、かなりの危険性をも併せ持っています。

詐欺、誘い出し、金銭問題、嫌がらせ行為、対人トラブル(SNS、ライン等)、スマホ依存(ゲームアプリ等)などです。それらの危険を回避するためには、次の3つの能力(下田真理子氏提唱)が必要です。

- ① ネット情報の嘘と真実を見分ける判断力
- ② 快楽的使い方にブレーキをかける自制力
- ③ 発信に責任を取ることができる責任力

あなたはこれらが身に付いていますか。

被害に遭わず、安全で楽しく利用できるように3つの力を身に付けて使いたいものです。



マスミ先生のワンポイントアドバイス



ICTってなに? その3 インターネット

インターネットは情報を受けるだけでなく、発信ができることもさくらさんは知っていますね。インターネットに軽い気持ちでのせた文章や写真が取り返しのつかないことになる。実際に社会問題になっています。



マスミ先生



さくら

わたしのおねえちゃんがスマホを持っていて「ライン」とか「ツイッター」をよくお友だちとしています。何が取り返しのつかないことになるのですか?

そう「スマホ」はだれでも持てる時代になったね。ポケットに入る大きさだからいつでも持ち歩いて、どこでもすぐネットにつないで文章の書き込みやカメラ機能でとった写真、動画をかんたんにネットに上げて多くの人と交流ができるすごい機械だね。でも、一度発信した文章や写真は、あっという間に広がって、取り消すのがむずかしくなってしまう。



マスミ先生



さくら

消せないことってこわいです。

「ライン」とか「ツイッター」はお友だちだけではなくだれでも見られるものと思ってください。今回のポイントは「軽い気持ちで文章や写真をネットに出さない」ことです。たくさんの人に見られる分だけ、「ネットに出したらどうなるか」を想像しなければなりません。これを考えず悪ふざけの写真やよくない文章を上げて取り返しのつかない事がおきてしまうのです。これを「炎上(えんじょう)」という問題になるのです。このようなことがないように「情報モラル」を身につけることが大切です。



マスミ先生



さくら

なにかむずかしそう...

だいじょうぶ! けっしてむずかしいことではありません。さくらさんはいっしょに学んでいけばインターネットを上手に使う達人(たつじん)になれます。では、25号をお楽しみに!



マスミ先生

次回に続く

→ マスミ先生へのご質問は、生涯学習課 028-686-6621 まで



SNSなどネットでの情報発信の注意点(情報モラルの基本)

ネットは送信・受信の「双方向」であり、その内容は「玉石混淆」(ぎよくせきこんこう)であることを認識しなければなりません。

受け側: 情報の正しさを見極める力が求められます。

送る側: 情報を良識的に考えて、送って良いものかどうか注意力が求められます。

青少年センターの活動

農業体験

9月6日(土)にナス、トマト等の野菜の収穫とブロッコリーの苗の定植体験、9月27日(土)には稲刈り体験を実施しました。

あいさつ巡回活動

第2回7月2日(水)、第3回9月3日(水)にあいさつ巡回活動が、市内学校及び氏家駅付近で実施されました。
[※上松山小学校は9月17日(水)]



和輪話の会「講演会」のお知らせ



演 題
日 時
場 所
講 師

「夜回り先生、いのちの授業
～子どもたちの明日を求めて～」
12月20日(土) 午後1時30分～3時00分
氏家公民館ホール
水谷 修 氏
花園大学客員教授 上智大学非常勤講師
テレビ朝日「ワイド!スクランブル」毎週火曜日レギュラーコメンテーター
※入場無料



われわれわいわい隊は奇数月に「あいさつ活動」を行っています！当初は人数も少なく、見慣れない大人たちに子どもたちもまどいを隠せない様子でした。が、今では指導員の人数も増え「わいわい」子どもたちもそれに見えない位元気いっぱいにあいさつしてくれるようになりました♡ある学校では子どもたちが自発的にあいさつをするようになりましたとの嬉しいご報告もありました。また、今年度からは警察官の方もあいさつ活動に参加してくださり登校時の安全確保にもつながりました。あいさつが様々な広がりをもたせ、活動を始めたわれわれがたくさん元気ももっています♡

わいわい隊 大河原千晶

「わいわい隊」とは

「(和)やかに(輪)になって(話)そう。」という、青少年センター少年指導員のみなさんの思いから、「わいわい隊」という愛称がつけられました。

■広報啓発班 大河原 千晶 / 飯島 満 / 岡 一雄 / 加藤 朋子 / 田代 眞澄 / 手塚 良作 / 福田 克之

さくら市の子どもを
みんなで育てよう

第3日曜は
家庭の日

ゆめさくら わわわつしん
夢咲楽～和輪話通信～ 第24号
発行日 平成26年11月1日

発行 さくら市青少年センター(事務局 生涯学習課)
〒329-1492 栃木県さくら市喜連川4420-1
電話 028-686-6621 FAX 028-686-5368
電子メール syogaigakusyu@city.tochigi-sakura.lg.jp
市ホームページ http://www.city.tochigi-sakura.lg.jp

次のゆめさくら「わわわつしん」は平成27年2月下旬に発行予定です